

## 2級【パターン】傾向と対策

色が付いていない箇所は常に気を付けていただきたい箇所となります。青く印した箇所は今回のデザインで関係ある箇所です。

ファーストパターンとは作図パターンを別紙にパーツごとにトレースして寸法の確認や縫い目のつながりが修正され、名称、記号、合い印等、必要な事柄を書き入れたものをいい、ファーストパターンが最終提出パターンになる。ただし、フラットパターンメイキングで作業を行った場合は展開した原型や作図、展開パターンの添付も必要である。

以下の項目は、求めているレベルに達していない又は未完成のため不合格の対象となるので注意する。

- ① ファーストパターンの欠落(身頃、衿、袖等)。
- ② 使用した原型に不正がある。(展開線が記入された原型やあらかじめゆとり分量や肩パッド分量が展開されている原型、使用不可の袖原型等)
- ③ デザイン・構造線が違う。
- ④ 試験問題に記載された着丈や袖丈と著しく違う場合。

<身頃>	
原型操作	① 原型を準備する際には注意すること。(ガイドブック・受験案内参照) 前後切り離して持参する。
	② 今回出題されたジャケットは、4面構成のパネルラインである。原型のバストダーツを衿ぐりや袖ぐりに適正分量を分散し、残りのダーツはパネルラインに展開し、イセて処理することになる。組んだ際によくシルエットを確認し、分量の調整をすること。
構成	① バストポイントから離れ過ぎたパネルラインだとイセ量が多くなり、処理が出来なくなる。そのようなことも考慮し、デザイン画通りの位置に切替え線を入れる。
	② 今回の出題ジャケットは、着丈が長いものであった。バスト、ウエストとともにヒップも上がり寸法を意識して作図しなければならない。ヒップ寸法が不足、ミドルヒップのゆとり不足のジャケットが多く見受けられた。デザイン通りに作図できるようにしっかり練習して試験に臨んでいただきたい。
	③ 構造線を入れるとき、ウエストが角張っていたり、カーブが不適切に引かれているものがある。本来はスムーズな線で繋がなければならない。
	④ イセの入る縫い目線には合い印をいれてイセる箇所を指定しなければならない。また、縫い止まり位置やウエストやネックポイントの位置などポイントになる部分には合い印を適切に入れる。
肩幅	① 肩幅に対して背幅が狭いものなど、関係が不適切なものがある。肩幅と背幅の関係が不適切であるとアームホールを崩し、結果的に袖に影響しシルエットも崩れてしまうので注意する。
修正	① 裾やネックライン、アームホールなどライン修正されておらず、シルエットに影響しているものがある。トワルの組み立て前に修正をし、設定どおりのジャケットが組めるようにしていただきたい。

＜ボタン・ポケット＞	
バランス	① ポケットのつけ位置もトワルに移す前につなぎりや長さの修正をして、正確につけていただきました。
大きさ	② ボタン間隔と大きさ、フラップの位置とのバランスを読み取り、デザイン画通りになるよう表現する。

＜ラベルと衿＞	
バランス	① 衿の作図法は様々あるが、後ろ中心での衿腰と衿幅の関係や衿付け線と外回りの関係が悪いために減点されたものも多くあった。今一度、衿の作図を復習していただきたい。
形状	② 衿先のきざみのバランスも絵型を見てよく吟味しておくこと。

＜袖＞	
形状	① 袖の製図には様々な方法があり、身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決める必要がある。また袖山の高さは袖幅にも影響するのでその事も考慮し、設定すること。また、袖山のイセ分量が多すぎたり寸法が不足することにより、袖山の形状が不自然だったりするものが目立った。
	② 2枚袖の切り替えも縫い目として、袖の形状として適切なカーブで描かれていなければならない。事前の練習が必要と思われる。
袖山	① 袖山のカーブの形状も付けた時の袖の振りや形状に大きく影響する。身頃のアームホールにあった袖山形状を身につけていただきたい。
袖口	① 袖口寸法もジャケットとしての許容範囲に設定し、バランスよく作図する。明きみせのボタン間隔と個数、止まり位置などもデザイン画をよく見てバランスよく入れること。

＜提出用ファーストパターン＞	
縫い代 合い印 記号	① ファーストパターンは各パーツ別々にトレースをして、必要な記号などを記入することで確実に点数を取れるようになったと思われる。
厳守 事項	① ファーストパターンは規定寸法の範囲内であり、課題のデザイン画のバランスを読み、形よく構成されていることや全体としてのバランスと部分的な形状が模範解答に近く、縫い目線の形状やつながりが縫製時を設定して考えられていることも大切である。また、鉛筆の線が一定した太さと濃さで描かれていることも重要である。線が蛇行しているものなど2級の完成度に達していないものが多かった。
	② 課題に設定された着丈や袖丈などの規定寸法や条件に関する説明を再確認し、要求されている記入事項として名称・地の目・記号・合い印・ボタンなどが記入されていること。衿、ポケットなど、必要なパターンが全て揃っていること。特に、パーツパターンの描き忘れや、切り離れたパターンが紛失しないように、最終的な確認を確実に行っていただきたい。